

クリスマス・新年のご案内

皆さまクリスマスおめでとうございます！

新しい教会堂でのクリスマスも3年目。今年も共にイエス様のご降誕を喜びましょう♪

12月18日(日) 10時30分~

—クリスマス主日礼拝・祝会—

礼拝の後に食事を持ち寄って祝会を行います！

(食事代 500円) プレゼント交換あり！

12月24日(土) 19時30分~

—燭火礼拝(キャンドルサービス)—

イエスキリストのご降誕を祝い、ろうそくに火を
灯して礼拝を行います。ぜひ教会へお越しください！

12月25日(日) 10時30分~

—主日礼拝(クリスマス)—

クリスマスの朝も、礼拝を共に守りましょう！

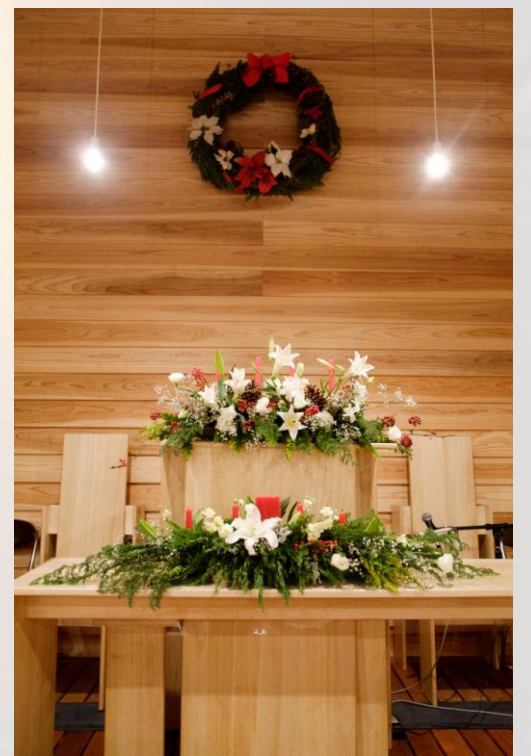
1月1日(日) 11時~

—元旦礼拝—

新年を教会で迎えましょう！



グッドデザイン2015に選ばれた教会堂でクリスマスと新年を！



クリスマスエッセイ「いのちに意味がある」

牧師 奥田知志

嫌な時代になってきているように思う。それでもなお、私たちは、あきらめず社会を創るしかない。何が出来るかわからない。しかし、できることは確実にやろうと思う。ともかく出会うこと、生きること。意見が違ってもいい、嫌いな人もいる。それでも、出会い一緒に生きて、時には泣いて、時には笑う。それで十分だと思う。「いろいろあったが、あなたと出会って良かった」と言い抜く。それが、この嫌な時代に対するカウンターカルチャー(対抗文化)となる。

嫌な時代だと感じたりきつかけは、七月二十六日、相模原市の障がい者施設で起きた事件に大きな衝撃を受けたからだ。元職員であった二六歳の男性が施設を襲撃し、一九人を殺害。四五人が死傷した。容疑者は、その後警察に出頭し逮捕された。抵抗も困難な重傷障がいの人々を狙った事件は「異常」としか言いようがない。だが、今回の事件を「異常な一人の青年が起した事件」と考えて良いか逡巡する。

容疑者の青年は、自分の行為を「日本国と世界のため」としており「悪いこと」ではなく「良いこと」、あるいは「必然のこと」であると確信していたようだ。「障害者は人間としてではなく、動物として生活を過してまいります」「私の目標は重複障害者の方が家庭内での生活、及び社会的活動が極めて困難な場合、保護者の同意を得て安楽死できる世界です」「障害者は不幸を作ることしかできません」。障害者なんていなくなればいい。「障害者には税金がかかる。耳を疑う言葉が並ぶ。これは衝動殺人ではない。ヘイトクライムである。すなわち「人種、民族、宗教、性的指向、困窮状況に置かれていたり特定の個人や集団に対する偏見や憎悪が元で引き起こされる犯罪」だ。犯人の特徴は、自らの行為を正当化しており、そもそもそれを犯罪とは認識していないこと。いや、それどころか「社会正義の実現」と胸を張るところにある。「日本と世界のため」とはまさにそれを示している。今回の事件は「一人の異常な青年の行為」ではなく、「現在の社会」の「価値観」や「ゆがみ」が大きく影響していると考えられる方が自然だと思う。

私がヘイトクライムと最初に出会ったのは一八歳の時だった。一九八二年末から翌年二月にかけて横浜市内の公園などで、少年たちがホームレスを襲撃するという事件が続いた。二月二日、市内の中学生を含む少年十人が傷害致死の容疑で逮捕された。彼らはテロリストでもなく思想信条を共有する結社のメンバーでもない。彼らは「子ども」だった。そんな彼らが徒党を組んでホームレスを襲撃したのだ。事件の残忍さ、犯人が中学生を含む少年だったことにも驚かされたが、それ以上に少年たち供述はさらに驚くものだった。「横浜の地下街が汚いのは浮浪者がいるせいだ。俺たちは始末し、町の美化運動に協力してやっつたんだ。清掃してやっつたんだ」「乞食なんて生きてたつて汚いだけでしょ」「乞食の味方をされるなんて、考えもしなかった」「なぜこんなな騒ぐんです。乞食が減って喜んでるくせに」。彼らは、自分たちの行為の正当性を主張した。それが大人社会の本音だと、彼らは知っていたからだ。少年たちは自分たちが大人社会の代弁者であり、大人ができないことを代行したと考えていた。

少年たちをホームレス襲撃に駆り立てたものは何であったのか。ストレスか。それもあるだろう。しかしそれ以上に、彼らには生産性があるか、意味のある人間か」との問いにさらされたのだと思う。彼らもまた「生産性を証明しなければ、自分がやられる」という強迫の中で生きていたのではないか。ホームレス襲撃は、彼らにとって「自分の生産性の証明」という意味があったのではないか。ホームレスが街から消えることを大人社会は「喜んでる」。それを見抜いた少年たちは大人に喜んでもらうため、つまり「自らの生産性」や「有用性」の証明としてホームレス襲撃を実行したのである。彼らも彼ら自身が襲撃したホームレスと同時代を生きていた「同時代人」であり、「生産性」がないと排除されるホームレスを自らの生産性の証明として襲撃していたのである。

相模原事件の彼もまた「生きる意味があるのか」という「生産性の問い」にさらされた同時代人であったことを忘れてはいけない。家族を殺害された遺族は、彼のことを決して赦すはできないだろう。しかし、「あのような事件を起したからには、もはやお前には生きる意味はない」と彼に言ってしまうならば、私たちは、出口のない暗闇の深淵に迷い込むことになる。私たちは相模原事件後生きなければならぬ。聖書の教えるところによれば、人間は本来善悪を知ることができない。そのような人間として私たちは、答えのない問いの中で呻吟するしかない。善悪に対して安易な答えにしがみつくよりは、「わからない」と言う方が真実に近いように思う。信仰とは、安易な悟りではない。善悪に対する「留保」は信仰的態度に他ならない。正直、わからない。しかし、前に向かって生きていこう。顔を上げる。青空が広がっている。祈りつつ歩んでいきたい。

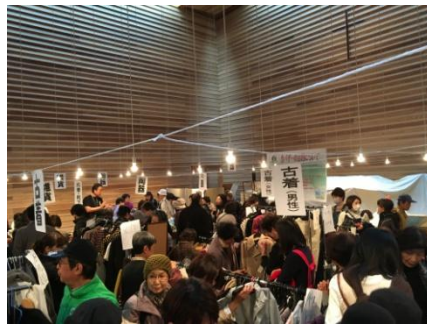
教会バザーへのご協力、ありがとうございました！

今年も11月23日に恒例の教会バザーを盛況のうちに行うことが出来ました。みなさまのあたたかいご支援と献品をいただきありがとうございました。ご来場くださったみなさまにもここに謹んでお礼申し上げます。今後とも地域に開かれた教会として活動していきたいと思っております。

なお皆様にご協力いただいた収益の中から、次の団体等に寄付をお届けします。

- | | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1、共生地域創造財団（東日本大震災および原発事故被害者支援） | 2、NPO 法人抱樸（困窮者支援） |
| 3、ペシャワール会（アフガニスタンにおける医療活動支援） | 4、PHD 協会（アジアとの交流支援） |
| 5、久山療育園バプテストコロニー・太陽パン（「障害」者支援） | 6、キリスト教海外医療団（JOCS） |
| 7、佐々木さんを支援する会（アフリカ ルワンダにおける和解のプロジェクト） | |
| 8、東八幡キリスト教会の働きのために（新教会堂建築費用として） | |

来年も教会バザーを開催する予定です。どうか、この働きをおぼえて、お支え下さいますように。献品の品々をポチポチご準備ください。来秋、ご案内チラシが参りましたらどうかよろしくお願ひします。



荒生田塾

2016年の活動ダイジェスト

① 7月3日 映画「わたしの自由について～SEALDs 2015～」上映会

荒生田塾としては初の試みとなった映画上映会。100人近い方々がお集まりくださいました。SEALDsは8月15日をもって解散しましたが、彼らの活動によって問われたこと、また与えられたビジョンを私たちは大切にしていけたらと願っています。今後も「生きるとは何か」を共に考えることができるような映画の上映会を「軒の教会」で行っていきたいと思います。



② 10月22日 沢知恵ピアノ弾き語りコンサート

「かかわらなければ vol.2」

昨年に引き続き、今年も沢知恵さんが軒の教会、荒生田塾に来てくださいました！今年も1曲目から讃美歌「久しく待ちにし」。こんな時代だからこそ「主よ とく来たりて、み民の縄目を解き放ちたまえ」との祈りが聞こえてきました。「あなたも見ていたのか」、「われ問う」、「胸の泉に」など、聴くもののあり方、生き方を問われる歌から、「いつくしみ深き」や「ありのままの私を愛して」など、慰めや励ましに満ちた歌、さらには泉谷しげる「黒いカバン」の替え歌「赤いチャリンコ」やノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランの「Blowin' in the Wind」などの親しみやすい歌まで、いい歌をいっぱい歌ってくださいました。また、「こころ」の元詩を書かれたお祖父様のことや詩人・塔和子さんのこと、震災のことなど、トークも盛りだくさんでした。来年はオールリクエストでやってくださるとのこと！今からご予約ください！



そして・・・

近日、奥田知志牧師、新著出版記念講演会を開催！！

2011年の出版以降、いまだに増刷を繰り返している『もうひとりにさせない』の出版からはや5年。待望のいのちのことば社からの著作第2弾が近日刊行されます。

その出版を記念して荒生田塾で記念講演会を開催予定。乞うご期待！！



〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田2丁目1番40
 電話/FAX (093) 651-6669 ホームページ: [東八幡キリスト教会](http://www.higashiyahata.ch) 検索
 Email: higashiyahata.ch.1955@nifty.com
 牧師: 奥田 知志 石橋 誠一
 協働牧師: 藤田 英彦 森松 長生 齊藤弘司

定例集会

- ・主日礼拝(一般の部) 毎週日曜午前10時30分より
- ・子ども礼拝(小学生以下の部) 毎週日曜日午前9時30分
- ・少年少女会(中高生会) 毎週日曜日礼拝後
- ・聖書の学びとお祈りの会
 夜の部 毎週水曜日午後7時30分
 昼の部 毎月第3水曜日午後1時

牧師へのご相談 随時受付中！

牧師へのご相談を受け付けています。お困りのこと、誰にも相談できないこと、何でもかまいません。一人で悩まずにご相談ください。ともかく一緒に悩みましょう！牧師には守秘義務がありますので安心して相談ください。

電話 093-651-6669